

日本映画放送株式会社 第84番組審議会議事録

1. 開催年月日：令和4年2月14日(火) 15時～

2. 開催方式：web会議ツールを用いて実施。

3. 委員(順不同・敬称略)

web会議ツールにて出席：鈴木 嘉一・砂川 浩慶・宮崎 美紀子・

神田 由築・西 正・山川 鉄郎・倉田真由美

書面にて出席：尾形 敏朗

放送事業者：

代表取締役社長 石原 隆

専務執行役員 山口 真

常務執行役員 宮川 朋之

編成局長 小川 英洋

制作部長 秋永 全徳

編成部 三瓶 祐毅 三品 貴志 八巻 洋平

番審担当 澤 尚志 後藤 健(記)

4. 議題

(1) 審議事項：時代劇専門チャンネル「三屋清左衛門残日録 あの日の声」について

(2) 報告事項：日本映画専門チャンネル「高倉健劇場4K」について

5. 議題(1)

2023年に傘寿を迎える国民的時代劇スター・北大路欣也の最新主演作「三屋清左衛門残日録 あの日の声2K版」を2023年1月14日に時代劇専門チャンネルで初放送した。同時に、日本映画専門チャンネルとの共同企画として、過去シリーズ5作や『冬の華』など豪華作品を「祝傘寿 北大路欣也祭」として正月三が日に特集放送した。「三屋」シリーズは今回で6作目となり、同著者の短編「闇の顔」「桃の木の下で」を「三屋」の世界に融合させて制作した。撮影は2022年5月に約1ヶ月弱で行い、先行初放送は2022年9月19日に日本映画+時代劇4Kで行った。

【審議のポイント】

- ① 今作では過去シリーズと比べサスペンス色を強く含んでいるが、「三屋」シリーズとしての作品性や過去作との繋がりなどについて、継続すべき点や改善点について。
- ② 前作はチャンネル初放送を正月期間(1月3日)に行ったが、今作では年末年始は本作のプロモーションを意識した編成とし、初回放送日を1月14日にした。これらの編成施策について。

6. 議題(1) 審議内容 ※文中敬称略

- ・固定したファン層に対して急に奇をてらうのは逆効果となるが、本作でサスペンス色を強くしたことは、シリーズを維持するための創意工夫だろう。
- ・時代劇でサスペンス色を出す試みは、時代劇ファン層も満足できるうえに、ミステリー好きの若い層を取り込む機会になる。
- ・シリーズ6作目となると安定感が出てきて安心してドラマを楽しめるが、お馴染みのレギュラー陣がもっとストーリーに絡んでもよいと思う。
- ・藤沢作品の他作品から事件を引っ張っているせいもあるが、ラスボスの浅田家老像がシリーズでぶれていることが気になる。

- ・この番組は4Kの普及・導入への後押しにはちょうどいい映像だった。
- ・登場人物それぞれの心情にスポットの当たったいかにもこのシリーズらしい作品であり、サスペンスを超えた極上の人間ドラマだった。
- ・本シリーズの本質は、清左衛門がいくら家族や友人に恵まれているとはいえ妻に先立たれ孤独であり、初老の日々の寂寥感を描くことだ。今回は謎解きに徹して、物語の中で清左衛門が自身と登場人物を重ねる要素が薄いように感じた。
- ・クライマックスの闇のシーンで黒がベタに感じられたのが悔やまれる。

これに対して弊社からの回答は以下の通りであった。

- ・清左衛門がスーパーマンのようにならないよう、時にサスペンス性を持たせつつも原点を大切にし、緩急のあるドラマを作っていきたい。
- ・視聴者に新鮮味を感じてもらいつつ、藤沢周平の世界感を壊さないように、長寿シリーズ化を目指していきたい。

7. 議題（2）報告事項

日本映画専門チャンネル

報告事項：日本映画専門チャンネル「高倉健特集4K」について

日本映画専門チャンネルでは2022年7月～12月に「高倉健特集4K」を放送した。当チャンネルでは高倉健主演の任侠映作品は人気が高く、満を持して全6作4Kデジタルリマスター版でのTV初放送に踏み切った。東映と共同で4K変換作業を行い、『日本侠客伝』シリーズなど東映時代の高倉健出演のキャリアを網羅するような名作を放送することができ、視聴者からの熱い反応があった。本企画は4K化作品を7月から毎月1作品ずつ放送し、12月に全6作一挙放送したことで、7月に情報をキャッチできなかった高倉ファンにも改めて特集の周知ができ、加入に誘導できた。

8. 連絡事項

次回、第85回番組審議委員会は、2023年5月16日(火)15時より開催予定。コロナ感染状況により、オンライン開催になる可能性もあり。